

| | 意見の分類 | 意見の概要 | 回答 |
|---|--|---|---|
| 1 | 成果指標とアクションプランの整合性 | 成果指標自体が評価に適していないのか、アクションプランが指標に合致していないのかを分析する必要がある。 | より適切に評価ができる指標を定めて、それを目指して取り組んでいくことで成果がでるように、精査していきたい。 (教育改革推進課) |
| 2 | 策定スケジュール | <p>現行の計画を1年延長するのではなく、2～3年延長し、令和6年か令和7年スタートではどうか。</p> <p>【理由1】 国や市の基本計画を参酌して作成したほうが良いため</p> <p>【理由2】 生涯学習推進計画と1本化を検討したほうが良いため</p> <p>【理由3】 学校現場が改革疲れの状況であるため</p> | <p>学校教育を取り巻く状況が目まぐるしく変わる中で、現行の計画の指標や施策が現状に合わないものがあり、この内容のまま2～3年延長していくのは適切ではないと考えるため、令和5年度実施で策定したい。</p> <p>国や市の基本計画とは同時進行になるが、都度整合性を図りながら策定していきたい。</p> <p>(教育改革推進課)</p> |
| 3 | 教員の資質向上 | 改革疲れが起きているような現場で、教員に求められるものが大変多い。施策を実行していくのは教員だと考えるので、その教員の育成はどのようにするのか。 | 働き方改革を念頭に、教員がやるべき仕事、教員以外でもできる仕事を仕分けしたり、地域と連携したりしながら教員の負担を軽減しつつ施策を進めていきたい。教員の育成については、研修制度または研修体系を構築している。 (教育職員課・教育センター) |
| 4 | GIGAスクール構想 | <p>1 「学びの革命」と「これまでの指導がベース」の整合性が分らない。</p> <p>2 指導の個別化・学習の個性化にどう対応するのか。</p> <p>3 端末を日常的に使用することに対する生徒指導的な面にはどう対応するのか。</p> | <p>1 教える内容や児童生徒に備えさせたい資質・能力はこれまでと変わらないが、ICT機器を積極的に活用することにより分かりやすく教えられるという意味で革命という言葉を使っている。</p> <p>2 1人1台タブレットPCを活用することにより一人一人の学習進捗状況の可視化などが可能となり、よりきめ細やかな対応を行うことができるようになると思う。</p> <p>3 端末の活用法については情報モラル的な面も含めて次期計画に盛り込んでいきたい。</p> <p>(教育改革推進課・教育指導課・教育センター)</p> |
| 5 | 地域との連携 | <p>1 地域と学校を結ぶことがうまくいっていない。管理職が長くその学校に在任したい場合、希望できるシステムがあるとよい。</p> <p>2 地域で学校に関わりたい方を集めて意見を聞くというような会が開催されるとよい。</p> | <p>1 スクールサポートスタッフや学習指導員を年度途中に募集したが、その中に多数の地域の方を含んでいる。現在リスト・バンクを作成して活用を検討している。管理職の在任期間は教育委員会で判断している。その地域に在任したことがある等なるべく地域を十分理解している方々の配置も進めている。</p> <p>2 地域の実情が様々である中、学校に関わりたい方をどのように把握し集めるかを検討しなくてはならない。地域との連携はすべての学校において重要な課題であり、それぞれ管理職を中心に進められている。学校支援地域本部設置校においては、地域コーディネーターが中心となり、地域人材を活用した学校支援が進められている。設置校は年に10校ずつ増やしている。</p> <p>(教育職員課・学事課)</p> |
| 6 | 教員の資質向上 読解力の育成 成果指標の見直しと成果の読み取り方 | <p>1 専科指導の非常勤講師の配置は有効。オンラインでの研修を活用したり、授業の達人や指導教諭やの配置が有効ではないか。</p> <p>2 読解力の育成が重要ではないか。(読書指導、体験活動の継続指導)</p> <p>3 計画は現場の意見も聞く機会を設定してはどうか。</p> <p>4 成果指標については1年ごとの数値に一喜一憂するのではなく、数年単位で成果を見てはどうか。</p> | <p>1 専科教員や専門スタッフについては様々取り入れている。今後も対応していきたい。</p> <p>2 読解力の育成等継続して取り組めるようにしたい。</p> <p>3 現場の意見も反映できるようにしていきたい。</p> <p>4 指標と評価の仕方について検討していく。</p> <p>(教育職員課・教育改革推進課・教育指導課)</p> |
| 7 | 不登校対策 地域との関連 | <p>1 不登校の生徒への対応はどうなっていくのか。</p> <p>2 地域とのつながりに大きく差がある。市教委からの指導はあるのか。</p> | <p>1 不登校生徒への対応については、様々な取り組みをしているが、今後も検討していく。</p> <p>2 地域との連携については管理職への研修会で伝えている。</p> <p>(学事課・教育支援課)</p> |
| 8 | コロナ禍の学習の遅れ | コロナ禍での学習の遅れについて教育委員会では把握しているのか。 | コロナ禍での指導計画の見直し案を教育委員会から提示した。学習の進捗状況は把握しており、現在ほぼ遅れは取り戻している。 (教育指導課) |

| | | | |
|----|-------------------------------------|---|---|
| 9 | 教員数の不足 | <p>1 教員の病気休暇の数が全都道府県の平均より高いと思われるので、その対策が必要である。</p> <p>2 病気休暇の補充人員の確保についての対策が必要である。</p> | <p>1 働き方改革の推進により、業務負担の軽減を図るとともに、教職員のメンタルヘルス不調を未然に防ぐため、メンタルヘルス研修、職場改善事例の活用のほか、長時間勤務者や高ストレス者には産業医面談を実施しており、引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>2 補充人員の確保については、正休補(※)を活用し、速やかに補充できるよう努めている。また、代替する講師の確保に向け、免許凍結者向けの相談会を開催し、掘り起こしを行うなど取り組んでいる。</p> <p>※正休補:教職員が病気休暇等を短期間取得した際に緊急に配置する正規職員 (教育職員課・教育給与課)</p> |
| 10 | 第3次計画実施期間 地域活用と子供の安全 教員のICT活用 | <p>1 次の学習指導要領改訂の時期を見据えて、実施期間を考える必要がある。(計画期間を後ろに延ばしすぎると、新しいことが反映されないまま続けることになる)</p> <p>2 働き方改革の視点から、計画内容の精選が必要である。</p> <p>3 地域との連携は大事だが、令和の時代においてどのようなことまでなら可能なのかを検討しておく必要がある。</p> <p>4 ICT活用について苦手な教員にもわかる丁寧なマニュアル作りが必要ではないか。</p> | <p>1 計画期間についてご指摘を踏まえ検討していきたい。</p> <p>2・3 今後検討していきたい。</p> <p>4 教員向けのマニュアルを作成し、そのマニュアルを使った研修を学校ごとに実施した。 (学事課・教育改革推進課)</p> |
| 11 | 働き方改革 学校の在り方 | <p>1 やることが増えていってしまい、計画自体は素晴らしいけれども実行できなければ本末転倒である。コロナ禍であるからこそ進めやすい改革(含 意識改革)を進めるべきである。</p> <p>2 学校という場所に行って、児童生徒が交わり、先生から教わるということの根源的な価値を今一度見つめ直して検討を進めるべきである。</p> | <p>1 次期計画では、柱や施策を精選していきたい。</p> <p>2 ご指摘を踏まえ、検討していきたい。 (教育改革推進課・教育指導課)</p> |
| 12 | 学校運営のICT化等 | GIGAスクール構想と同時に、学校運営のICT化や学習履歴の活用を進め、働き方改革につなげるなど、学校や教員のメリットを盛り込んでほしい。 | ICT機器を有効に取り入れ、業務負担が軽減するよう検討していく。 (教育改革推進課・教育指導課) |
| 13 | 専門業者(民間)の活用 | 教員の仕事を分業し、専門業者等をより活用してはどうか。 | チーム学校を推進する中で検討していく。 (教育職員課・教育指導課) |